

## 資料 5

### 第 1 回京都市小学校教科書選定委員会会議概要

#### 1 日時

平成 30 年 5 月 14 日 (月) 18 時 30 分から 19 時 00 分まで

#### 2 会場

京都市総合教育センター 永松記念ホール

#### 3 出席者

- (1) 選定委員 18 名
- (2) 教育委員会事務局 11 名

在田教育長, 清水教育企画監, 佐藤総合教育センター所長,  
池田指導部担当部長, 清水指導部担当部長, 諏佐学校指導課長,  
関学校指導課担当課長, 安藤統括首席指導主事, 手塚統括首席指導主事,  
坂本首席指導主事, 安居首席指導主事

#### 4 議事

教科書選定に関わる教育長からの諮問及び教育委員会事務局からの説明の後, 委員の互選により正副委員長が選出された。

- (1) 在田教育長から挨拶及び平成 31 年度に使用する京都市立小学校及び義務教育学校 (前期課程) で使用する教科書の選定についての諮問を行った。
- (2) 安居首席指導主事から教科書選定の進行, 公正確保等についての説明を行った。
- (3) 委員の互選により委員長に牧野雅彦委員が, 副委員長に浅井和行委員が選出された。

## 第2回京都市小学校教科書選定委員会会議概要

### 1 日時

平成30年7月9日（月）18時30分から19時15分まで

### 2 会場

京都市総合教育センター1階 第2研修室

### 3 出席者

(1) 選定委員 17名

(2) 教育委員会事務局

清水教育企画監、佐藤総合教育センター所長、池田指導部担当部長、清水指導部担当部長、諏佐学校指導課長、関担当課長、安藤統括首席指導主事 他

### 4 議事

(1) 委員長から挨拶が行われた。

(2) 答申案について説明が行われた後、外部委員からの意見を踏まえ、協議した。

(3) 答申案については、委員長提案により正副委員長預りとすることで了承された。

### 5 外部委員の主な意見と事務局の回答

(1) 新学習指導要領で重視されている「主体的・対話的で深い学び」のとりわけ対話的な学びについて、具体的には教科書上でどのような工夫がされているのか。異なる考え方を持つ他者との会話によって、子どもたちには気づきや得られるものがあると思う。対話を大切にした授業展開をしていただきたいと考えている。

→国語科の教科書では、低学年では1対1の対話を設定し、発達段階に応じて複数人の話し合い、さらには学級全体の話し合いへと学習が発展するように構成されている。また、話すこと・聞くことが大切にされており、対話的な学びが段階的に広がるように工夫がなされている。理科の教科書では、話し合うヒントを示した「話し合おう」という項目が設定されており、予想や考察などで既習事項を基にした言語活動が意識されている。

(2) 新学習指導要領で新たに加えられた各教科等における「見方・考え方」については重要な視点であると考える。資料についても教科で統一的な表記を検討されてはいかがか。また、音楽科については伝統音楽の充実が示されており、そのことが伝わるような表現が必要ではないか。

→委員御指摘のとおり、教科を学ぶ意義の中核をなす「見方・考え方」、伝統音楽の充実は新学習指導要領において大切な視点である。調査研究においても重視してきた視点でもあるので、資料の表記については調整を図る。また、伝統音楽についても本市では、箏等の和楽器を用いた実践的な授業を展開しているところである。

(3) どの教科書もカラフルで、挿絵なども児童にとって楽しそうであり、各教科で取り扱う範囲も増えていると感じる。

(4) 子どもが宿題をする際、わからないところは教科書を見て、復習をしながら取り組んでおり、教科書のわかりやすさを実感している。書写の筆遣いの大切さなども掲載されており、教員の指導が教科書に沿って丁寧になされていることを感じた。

(5) 昔の教科書よりもわかりやすい内容になっていると感じている。調査研究をされている先生方の御苦労には感謝申し上げる。